

## ■ 松本 昇遺作展

第4展示室

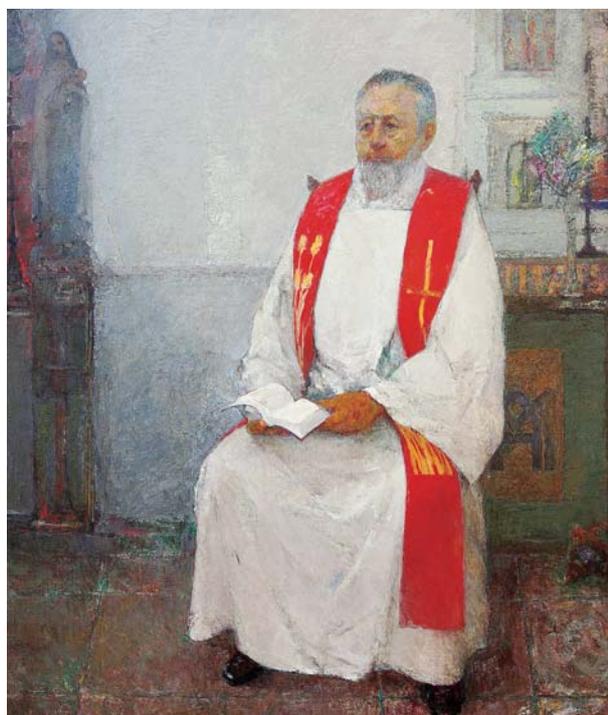
## ■ 百万石大名の装い 一甲冑・陣羽織一

前田育徳会尊經閣文庫分館

## ■ 近世絵画名作選

第2展示室

- 主なコレクション展示
- 7月の企画展示室
- 展覧会回顧
- この夏各地で注目の展覧会
- バスツアー報告
- ミュージアムレポート
- ミュージアムショップ通信
- 所蔵品紹介



松本昇 聖職者 ー松本昇遺作展ー



石川県指定文化財 狩野尚信「柳鶩図」右隻 江戸時代17世紀 個人蔵 ー近世絵画名作選ー

## 近世絵画名作選

6月17日(木)～7月19日(月・祝)  
会期中無休

今回は代表的な展示作品を紹介します。最初は、石川県指定文化財の狩野永徳筆《松樹禽鳥図》です。狩野永徳は、織田信長や豊臣秀吉ら桃山時代の天下人に重用され、簡略な書体による大画様式を確立しました。この様式は、短期間に公的・私的な空間に設置される作品を多数制作する注文をこなす上で必然的に誕生したという側面もありますが、そうした実用面での課題と芸術性を高い次元で融合させている点に、永徳が主導した狩野派の力量が存分に発揮されています。本作も両端に画面を突き破るような松の大樹を配するなど、典型的な永徳の様式によっていますが、岩や鳥など吉祥的意匠を担うモチーフや、遠景の松林など、

視覚的な効果を入念に勘案しています。次は、同じく石川県指定文化財で本号の表紙に掲載した狩野尚信筆《柳鷺図》です。作者の尚信は狩野探幽の弟で、本作では探幽が確立した減筆体の手法を効果的に使用しています。六曲一双の画面形式に、夏と冬の柳と鷺を金地の余白の効果を生かしながら、遠近感も巧みに表現しつつ、装飾的に描いています。ここには、漢画的な表現にやまと絵的な表現を融合しようという意欲も感じます。また、桃山から江戸への時代性の変化を、先の永徳の作品との比較から確認することができます。その他本展では久隅守景《四季耕作図》や伊年印の《四季草花図》などの名作も展示します。



「四季草花図」伊年印 右隻 江戸17世紀

## 百万石大名の装い

—甲冑・陣羽織—

6月17日(木)～7月19日(月・祝)  
会期中無休

「百万石大名の装い」と題して、歴代藩主が着用した甲冑と陣羽織など二十六点を展示しています。

今回の甲冑で、最も古いものが三代利常所用の「黒塗六十二間甲冑」です。黒塗の六十二間筋兜が用いられていることから、この名称で呼んでいます。兜は室町時代のもので、三ツ鍬形の立物がつけられています。その鍬形台には菊花の毛彫りが施されており、同様の意匠が胴の金具にも用いられています。紫糸威の胴には花文を大きく配する豪華な具足で、三代利常が所用したものであるのは唯一残されている甲冑です。

元和以降の平和な時代がおとずれてくると、具足にも変化が現れてきます。その傾向が顕著に見られるのが陣羽織です。実用的なものから儀礼的

な服装に変化し、装飾的な要素が強くなつてきます。四代光高所用の「五三桐文陣羽織」は、背の中央に

白羅紗地に紅羅紗で、五三の桐の大紋を配しています。太閤秀吉の桐文を偲んで用いられたと思われるもの

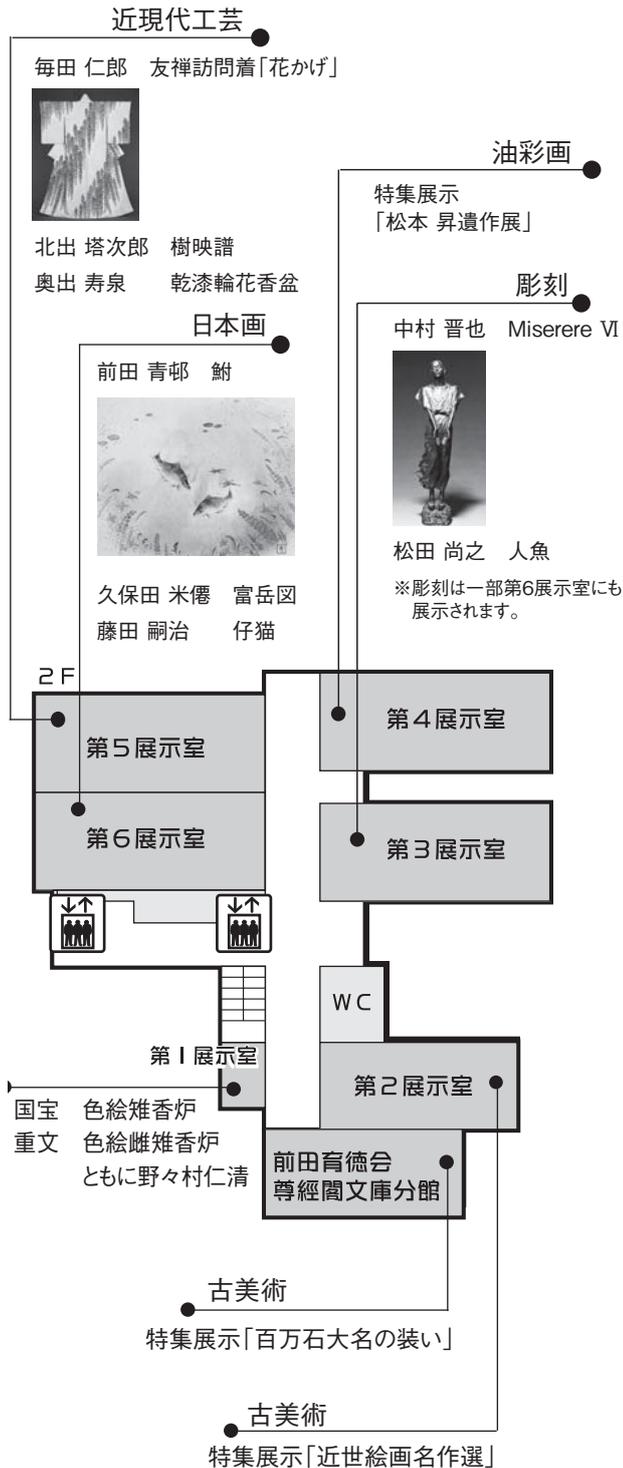
で、地の羅紗を切り抜き、模様をはめ込むことにより、縫い目を見せないで縫い合わせる高度な技法が用いられています。桃山時代の気風がうかがえるものといえます。さらに時代が下ると裏地にも変化が見えてきます。豪華な裏地やとてもおしゃれな裏地を用いるなど隠れたところに百万石大名の意識が垣間見えてきます。

展示室で実際にご覧になって、こうした変化を味わっていただければと思います。

白羅紗紅五三桐文陣羽織  
4代 光高 所用黒塗六十二間甲冑  
3代 利常 所用

# 主な展示作品

6月17日(木)～7月19日(月・祝)  
会期中無休



# 松本 昇遺作展

6月17日(木)～7月19日(月・祝)  
会期中無休

本展では松本昇氏の昭和二十七年第八回日展初入選作の「裸婦」から、絶筆となった平成二十一年第九十五回光風会展出品の「N氏座像」まで、三十九点の油彩画と、裸婦デッサン、そしてイーゼルやパレットなどの遺愛品を展示いたします。五十年間の創作の歩みを、これらの作品を通してご覧いただきたく思います。前号は展示の概要を述べましたので、今回は、松本氏の制作の主軸をなした《自画像》について述べます。

自画像での展覧会出品は昭和六十二年の「朝のアトリエ」から始まります。松本氏は五十六歳、この年大きな転機を迎えます。美大卒業後長く勤めた教員生活を三月に退き、画業一筋を決意したのです。ですから「朝のアトリエ」は、氏にとつ

て新生第一作にあたります。そして、二年前に没した師・高光一也を記念する高光賞を光風会展で受賞しました。この当時は松本氏は「体の中を風が吹き抜ける感じがあった」と振り返ります。誰に遠慮することなく筆を振るえる自画像を、この後十年間集中して描き続けました。初の日展特選は六十二年の「N氏の午後」、そして再度の特選は平成七年の「男の像」。この間に「相間」「画室にて」「対話」「虚像」「虚像Ⅱ」とずらりと自画像が並びます。制作途中のキャンバスをバックに、じつと思案し、あるいは虚脱する様々な松本氏が描かれています。虚空からなにかをつかもうとあがく画家という存在が、一枚一枚に刻まれています。



「朝のアトリエ」昭和62年  
小松市立博物館



「虚像」平成6年  
当館蔵

## 第7展示室

2010

# 一陽会石川支部展

7月14日(水)～7月18日(日)会期中無休  
午後6時閉室

◇入場無料

◇連絡先 一陽会石川支部庶務係 竹田明男

TEL 〇七六―二四八―五八九八

今年、東京六本木の国立新美術館で開催される第五十六回「一陽展」(九月二十九日(水)～十月十一日(金))に向けて、一陽会石川支部のメンバーが出品します。「一陽会は清新にして深奥なるものの創造に勉勵し、新時代の美術を推進せんとする。一陽会は先鋭なる未完成こそ推薦し、前人未踏の新分野の確立に努力するものである」この精神にふまえ、石川支部メンバーの絵画三十二名、彫刻二名が日々研鑽努力し創作してきました、一年間の渾身の成果を展示いたします。美術愛好家の方々にご高覧いただいで、ご教示いただければ幸いです。

# 7月の 企画展示室

南画(南宗画)は、唐(中国)の王維に始まるとされます。昭和三十五年京都に於いて松林桂月、矢野橋村、河野秋邨を中心として社団法人日本南画院が結成され、日本風土のなかにより多くの素材を求めながら東洋美術の精粹と言われる水墨画、墨彩画が日本画、西洋画の写生手法を巧みにとり入れつつ革新的な新南画の創造がなされ、これが日本南画院の指導精神をなすものです。今年第五十回記念で「甦る屏風展」を同時開催します。

◇入場料 一般 五〇〇円 団体三〇〇円

※当館友の会員は会員証提示で無料になります。

◇連絡先 金沢市緑が丘五―二〇 慶祐幸治

TEL 〇九〇―一三一六―八四八八

「日本画を志すものが、これまでの既存的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、新たな日本画の会としてスタートしました。二十代の若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、動物や植物、具象から抽象など多岐にわたっています。ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料

◇連絡先 輪島市鶴入町二―三七

石川県日本画会事務局長 宮下和司  
TEL 〇七六八―二二―七一一四二

## 第9展示室

第1回

# 石川県日本画会展

7月14日(水)～7月18日(日)会期中無休  
午後6時閉室

## 第7～9展示室

第50回記念  
公益社団法人

# 日本南画院選抜金沢展

7月2日(金)～7月11日(日)会期中無休  
午後6時閉室

# 展覧会回顧

## 石川県立美術館の半世紀の歩み

4月25日(日)～5月16日(日)開催

石川県立美術館は、昭和三十四年開館の石川県美術館を母胎に、昭和五十八年に規模・設備を充実して現在の地に新たに開館しました。それから二十四年後の平成十九年から約一年間休館し、空調設備更新・バリアフリー化や収蔵庫の増設などの大規模改修を行いました。

加賀藩時代からの美術工芸の伝統をふまえて、豊かな文化の創造と推進をはかる拠点をめざし、地域文化の集積として特に藩政期から現在に至る石川県ゆかりの美術工芸品や、日本美術史上注目される作品を収蔵してきました。収蔵点数は、旧石川県美術館では、茶陶・古九谷など陶磁器を中心に約一四〇件、現在地に移転した石川県立美術館開館時には約一四〇〇件、開館から五十年を経た現在は三〇七六件となりました。

本展は、石川県立美術館の所蔵品の中から、県民に広く愛好され、また全国的な評価も高い秀作を二九五点選りすぐり、企画展示室三室に加え、前田育徳会尊經閣文庫分館を除くコレクション展示部門の全展示室を活用して一挙に公開しました。作

品保護のため展示する頻度が少ないもの、数年間をかけてようやく全貌をご覧いただくことができるものなど、名品・名作の数々を古美術、近現代工芸、近現代純粹美術のジャンルごとに鑑賞できるまたとない機会でした。観覧者からは選りすぐられた作品が多く、所蔵品が多様にわたっていることや、藩政期から続く美術工芸の歴史と作家の層の厚みを一挙にみることで、一度でとても味わいつくせないとの声がありました。

毎週日曜日の学芸員によるギャラリートークのほか、当館館長による「石川県立美術館のコレクション・作家コレクターよもやま話」と題した講座では、作品収蔵経緯や収蔵以前のコレクションの逸話、作家の人となりなど興味深い話があり、参加された方々はより作品・作家に親しみが深まり、展観を堪能していただくことができました。

なお、開設五十周年を節目として収蔵された作品の中から名品三十一点を収録した名品図録を刊行しました。興味のある方は、是非手にとってご覧ください。

## この夏各地で注目の展覧会

### サントリー美術館

「能の雅(エレガンス) 狂言の妙(エスプリ)」

六月十二日(土)～七月二十五日(日)

国立能楽堂の能楽関係資料約一八〇件をはじめ、前田家伝来の能装束十一領を初公開。

東京都港区赤坂 東京ミッドタウン ガレリア三階  
TEL 〇三―三四七九―八六〇〇(ハローダイヤル)

### 国立新美術館

「オルセー美術館展2010 ポスト印象派」

五月二十六日(水)～八月十六日(月)

オルセー美術館のコレクションから絵画の傑作一一五点を一堂に展覧。

東京都港区六本木  
TEL 〇五〇―五七七七―八六〇〇(ハローダイヤル)

### 徳川美術館

「大名古屋城展」

七月三十一日(土)～九月二十六日(日)

名古屋開府四百年を記念し、資料や伝来の品々から名古屋城の全貌を紹介。

名古屋市中区徳川町  
TEL 〇五二―九三五―六二六二

### 奈良国立博物館

「至玉の仏像」

この夏「なら 仏像館」と名をあらため生まれ変わる、重要文化財「旧帝国奈良博物館本館」で開催。

「仏像修理100年」  
※ともに七月二十一日(水)～九月二十六日(日) 両展共通

奈良市登大路町  
TEL 〇五〇―五五四二―八六〇〇(ハローダイヤル)

### 九州国立博物館

「馬 アジアを駆けた二千年」

七月十三日(火)～九月五日(日)

奈良県藤ノ木古墳から出土された国宝の黄金の馬具をはじめ、中国・韓国よりの馬文化の資料を展示。

福岡県太宰府市石坂  
TEL 〇五〇―五五四二―八六〇〇(ハローダイヤル)

# 第8回美術館バスツアー報告

## 近くて遠い福井の旅

五月二十三日(日)、八回目を迎え恒例となった、美術館バスツアーがありました。隣県とはいえ、個人での文化財めぐりが難しい福井への関心は高く、四十四名の募集人数に七十名ものご応募がありました。都合で行けなくなった方が何人かいましたが、キャンセル待ちの方に繰り上げ当選を連絡すると、旅行の数日前にもかかわらず、参加を快諾していただきました。当日はあいにく一日中雨でしたが、参加者の方々のご協力により、無事に全行程を終えることができました。

### 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

予定より早めに到着しましたが、特別に開けていただき、地図や模型を使って、遺跡の概要についての説明がありました。説明後に質問もいくつか出ており、参加者の方々の関心の高さがうかがえました。企画展「去年、遺跡で何出たの？」では、室町時代のガラス工房の新出土品など、朝倉氏の栄華を思わせる展示品が並んでいました。

### 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡

ここへ行きたかった、という声が圧倒的に多かったのがこの遺跡です。復元町並みから回る組と、庭園や屋敷跡から回る組との二手に分かれ、それぞれにガイドが付いて見学しました。雨風がやや強くなり、足下も悪く見学に最適とは言い難い天気であったため、庭園の見学を断念した方もい

ましたが、説明は詳しく丁寧で、大変充実した見学でした。

### 福井県立美術館

開催中の企画展「市民の愛したもう一つのヨーロッパ絵画」を、展示会の担当である副館長の解説で鑑賞しました。バロック絵画の成り立ちや、宗教画を鑑賞するときのポイントについて、分かりやすい説明があり、西洋絵画の鑑賞において目から鱗が落ちた、という声が少なからずありました。常設展で開催中の「岩佐又兵衛」福井藩御用絵師の軌跡」では、歌仙絵などの古典的な作品が展示されており、よく又兵衛の特徴とされる、やや過剰な表現とは違った一面を見ることができました。

### 大安禅寺

ここも一度訪れてみたかったという声があった寺でした。まだお若くお元気な副住職から禅宗について、そして建物や本尊についての説明がありました。その後各々で寺内を巡り、建物の内部や仏像をじっくり拝観し、収蔵館では明兆筆と伝えられる重要文化財「羅漢図」など、福井藩の藩主からの寄進や奉納などによる寺宝を拝観しました。

### 瀧谷寺

足下は悪かったのですが、雨に濡れた山道が美しく、自然と一体化したような風情のこの寺もまた、参加者の方々から一度参詣したかったという声が多かったところで

す。本堂で丁寧な説明を受け、建物の内部と、池泉築山式の国指定名勝庭園を拝観しました。その後宝物殿へ移動し、国宝「金銅毛彫宝相華唐草文馨」などの文化財を拝観しました。

悪天候もさることながら、それぞれの場所が離れており、見学時間が充分でなかったように見受けられました。見学場所の数と所要時間は、計画する際に思案の種となるのですが、参加していただいた方々の意見をできるだけ取り入れて、これからも満足度の高い見学旅行を企画していきたいと思えます。



特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡

# ミュージアムレポート

## キッズ☆プログラム きじっ子茶会

今年度最初のキッズ☆プログラム『きじっ子茶会』が、五月三十日（日）に開催されました。コレクション展示の「茶道美術名品展」に合わせ、茶会体験と展示室鑑賞の内容で行われました。

今回は茶会の中でも、茶道についてや茶室のしつらえ、茶道具についてなど、少し詳しくお話しさせていただきました。親子でお茶一服を楽しんでいただきました。『きじっ子茶会』開催も今回で四回目。今回の参加者の中には、この『きじっ子茶会』の参加が二回目、三回目の方もたくさんおられ、お茶を頂くときのご挨拶なども皆様とてもスムーズでした。茶会後は、展示室での山川コレクションを中心とした茶道具の鑑賞を行いました。大切に伝えられてきた茶道具を鑑賞し、茶道のさかんな石川県を味わっていただきました。

この『きじっ子茶会』に何度もご参加頂くなど、当館の活動に関心を持っていくくださることに大変嬉しく感じております。また、同時にこれからの魅力ある活動をご用意していかなければと、身の引き締まる思いもした今回のプログラムでした。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



## 七月の行事

■土曜講座	午後一時三〇分～	美術館講義室	入場無料
十日（土）	石川の日本画 戦後の歩み	西田孝司学芸専門員	
十七日（土）	高光一也と金城画壇	二木伸一郎担当課長	
■ビデオ上映会	午後一時三〇分～	美術館ホール	入場無料
十一日（日）	日本の美 7 日本人の原風景 日本の美 8 用と美―伝統工芸―（二十七分）		

## 当館コレクションが見られる展覧会

### 「没後二十五年 鴨居玲展」

会場／そごう美術館

会期／七月十七日（土）～八月三十一日（火）

「静止した刻」「望郷を歌う」「1982年私」「蜘蛛の糸」

「酔って候」 以上鴨居玲

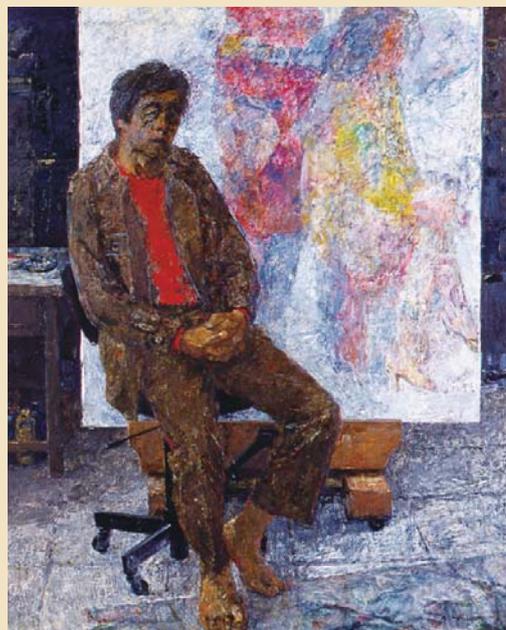
※巡回展 北九州市立美術館 九月十一日（土）～十一月五日（金）

## 次回の展覧会

企画展示室	語りかける風景	七月二十一日～八月二十三日
第5・6展示室	徳田八十吉二代展	
第4展示室	ふしぎがいっぱい	
前田育徳会 尊經閣文庫分館	大名家の調度	七月二十一日～九月七日
第2展示室	古九谷・再興九谷名品展	

松本 昇 まつもとのぼる 昭和6年(1931)～平成21年(2009)

制作に疲れたのでしょうか、男がキャンバスを背に、呆然とした表情で椅子に腰かけています。その姿勢は制作途上の絵に描かれた女性の姿と相似で、繰り返される形が絵にリズムと空間を与えています。そして短く刻んだ線描が白いキャンバス、アトリエの床、N氏の着衣と顔などに縦横に走り、画面の親和性を高めています。



一年半が経とうか、五十六歳を迎えるのを機に、教職を辞し、画家一筋の生活に入った。以前であれば午後の時間はまだ学校である。画家としての生活のリズムは既に馴染んだのであろうか。いや、……。こうしたモノローグをつぶやき、思いを宙に漂わしているようです。哀感を漂わす一作です。

#### 《作家略歴》

昭和六年小松市生まれ。二十七年金沢美術工芸短期大学油絵科卒業。高光一也に師事。同年日展初入選。三十八年光風会展初入選、以後光風会展に出品、六十二年高光一也賞受賞。六十三年・平成七年、日展特選。十二年小松市文化賞。十六年日展会員。十七年石川県文化功労賞。二十年光風会理事。二十一年六月四日逝去。

## ミュージアム ショップ通信

### 一筆箋の使い方

先日休みを利用し、ちよっと遠出を。帰りに少し足を伸ばして古い友人宅へ向かいましたが生憎の留守です。せつかく来たので一言書いて郵便受けに入れることに。鞆にしのばせた美術館の一筆箋が役に立ちました。もうすぐお中元の季節。お世話になっているあの方にも一言添えて贈りたいもの。すてきな一筆箋なら感謝の心も素直に届きそうです。



### ご利用案内

#### コレクション展観覧料

- 一般 350円 (280円)
- 大学生 280円 (220円)
- 高校生以下 無料
- ※ ( ) 内は団体料金

#### 今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

#### カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

石川県立美術館だより 第321号  
2010年7月1日発行(毎月発行)

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

7月の休館日は  
20日(火)・21日(水)です